

414) 印鑑

その日は証券会社に行って、ちょっと無くしてしまった書類の後始末何ぞをする事になっておりました。そこで届け出印を持参して、さて書類に押印しようとする、確かに上着のポケットに入れておいたはずの印鑑が、どうしても見つからないのであります。鞆の中かとも思って、鞆の中をくまなく捜してもどうしても見つけることができません。家に忘れてきたのかと思って、家に電話して捜してもらったのですが、やはりありませんでした。仕方なく出直すことにして、帰ろうとして入り口のほうに2～3歩歩くと、係の人が我輩のことを呼び止めるのであります。何事かと思って戻りかけると、大変失礼ですが、上着を脱いでいただけませんかと言うのです。我輩はおかしな奴だと思いつつ上着を脱いで、「それで？」と言うと、「上着をちょっと貸してください」と言うのであります。我輩は言われるままにしていると、そいつは上着の裾をもぞもぞと探り初めて、「ありました。」と言うではありませんか。貧乏サラリーマンの悲しさで、我輩の上着のポケットには隅に小さな穴が開いておりました、その穴から印鑑は飛び出して、背中の方に廻ってしまっていたところを、この担当者は目敏く見つけ出したと言うわけだったのであります。

